

白い森人創生プロジェクト【山形県小国町×山形県立小国高等学校】

研究開発の目的・目標

小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、高校における白い森学習（地域学習とキャリア教育を複合させた活動）を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである高校の学校運営協議会を活用し、地域の様々な主体と協働することで、より効果的・実践的な取組に発展させる。この過程において、広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材の創生（高校の教育目標）を目指すことで、地域活性化の一翼を担う。

現状・背景

- ◇ 全国高等学校小規模校サミット（2018年より開催）での地域と協働した活動が生徒の成長に有意義であることを確信 ➡ 地域を学びの場とすることへの期待の高まり
- ◇ 町が掲げている保小中高一貫教育の学習体系を確立し、保小中で醸成された郷土愛を土台に高校での実践的な活動を展開し、生徒の社会的・職業的自立につなげたい
- ◇ コミュニティ・スクール（2017年より東北地方の高校で初設置）を活用し、地域の多様な主体との連携を促進したい

研究開発の仮説

1. コミュニティ・スクールの特性を活かした地域の様々な主体との協働
2. 保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による「白い森学習（本町の地域学習）」の段階的教育の確立
3. 地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保



研究実践

1. 地域と連携した課題設定・解決や産業界の協力を得たキャリア教育

【具体的な取り組み】

○ 地元企業・地域団体（愛好家）とのつながり

1年ハタラトーク！（若手社員との対話）、2年インターンシップ、3年地元企業人面接
地元企業・地域の団体協力の授業

〈例〉総探：白い森未来探究学の地域講座の講師
外国語：地元カボチャ使用のハロウィンWS
体育：地元愛好家とのスキー・パークゴルフ
家庭：町内住宅見学、再エネルギー講座
保健：地元企業の労働と健康講座、地元警察署の交通安全講座、地元消防署の救急講座

課外活動 〈例〉エコバック製作、農業体験、バスケットボールクラブ活動

○ 高校生・地域の若者の学びの場の創出

白い森ビジネス創出塾（町主催）→ ビジネスプランコンテストへ

地域みらい塾（町主催、若者のアイデア創出・実践）→ 実践のための資金サポート有

○ 高校生の力が発揮できるボランティア・地域貢献活動（地域協働ルールの提示）

〈例〉高齢者住宅の除雪ボランティア、小学校での防犯啓発、シトラスリボンプロジェクト
特殊詐欺被害防止広告用オリジナル通帳ケース企画・作成

○ 高校生との対話・交流の場の創出

〈例〉高校生と町議との意見交換会、トークフォークダンス（地域の大人との対話）

○ 学校教育活動の充実による課外活動（部活動）の地域移行（2020年より部活動任意加入）



研究実践

2. 「白い森未来探究学（総合的な探究の時間）」への発展・拡充と 科目・教科等横断的な取り組みの推進

【具体的な取り組み】

○ 「白い森未来探究学」を3年間の学びに構築

- 1年 地域文化学（地域に浸る）：地域の格好良い大人と出会う、興味関心を高める
- 2年 地域実践学（実践する）：個々に課題を設定し、マイプロジェクトを実施
- 3年 地域構想学（提案する）：今までの実践から新たな提案へ、将来につなげる

○ 小国高校生による保小中学生のメンターとしてのサポート活動

- 〈例〉 中学3年体験入学で対話・交流 / 中学3年「プレゼン研修」講師
- 中学2年「白い森学習発表会」アドバイザー
- 町内小中学生サイエンス講座サポーター

○ グランドデザインの明確化

メインテーマ「挑め、ともに！」・育成したい資質能力「おぐパワ7」の設定（2019-2020）

学校×地域×高校生が一堂に会してワークショップ（2021）

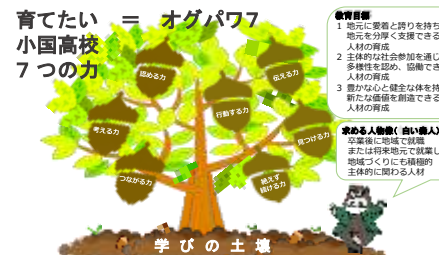
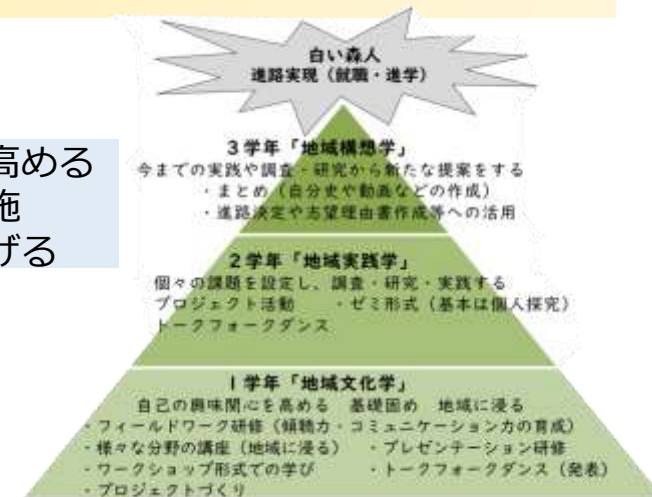
○ 単元配列表の作成（総探を軸とし、本校としての育てたい資質・能力でつなぐ）

職員室内に見える化 ➡ 各教科の専門性×地域資源（「自分は何ができるか」を考える）

○ 大人の「白い森人研修」の計画・実施（教育現場のバージョンアップ）

年間計画にも位置づけ（2020年5回実施、2021年7回実施）

- 〈例〉 チームビルディング（年度初めの顔合わせとして実施）
- 新学習指導要領（教育の転換の本質）の理解



研究実践

3. 外部人材の活用（大学・企業・他校連携、ICT遠隔教育、アントレプレナーシップ教育）

【具体的な取り組み】

①大学連携（東北芸術工科大学、山形大学 等）

〈例〉生徒対象の研修（コミュニケーション・ファシリテーション・リフレクション・リーダーシップ等）
工学部での研究活動／大学生との交流授業（特産物の商品開発）／各種出前講座

②地域外で活躍する人・企業との交流（授業や課外講座の実施）

〈例〉SDGsゲーム演習／隣町フィールドワーク／人権教育／ボードゲーム演習／気候変動講演
馬頭琴演奏会&キャリアトーク／住まいと暮らし／各種国際理解講座

③他校生との交流と表現の場（全国高等学校小規模校サミットを中心に）

全国高等学校小規模校サミット開催（2018年より主催、2020年・2021年はオンライン）

➡ 主体的・対話的で深い学びの場＋協働的・探究的な活動創出

〈例〉2年オンライン総探授業連携／1年オンライン国際交流／マイプロ交流／
マイプロアワード山形サミット出場／地区高校生地域活動（地区教育事務所主催）
県探究型課題学習研究発表会出場（優良賞）／地区小論文コンクール参加（2年連続最優秀賞）

④ICT機器活用による遠隔教育（学びを止めない緊急時対応計画策定、小規模校の利点活用）

1人1台ICT機器の導入（コンソーシアム等の支援）、スタディサプリ導入（町支援）

⑤アントレプレナーシップ教育（5回連続講座）➡ ビジコン出場やマイプロ活動等につなげる

⑥さらなる関係（還流）人口の創出拡大を求めて

高校魅力化コーディネーターの採用（町支援、2020年～）

「高校生の地域留学の推進のための高校魅力化支援事業」の申請・採択（町主導、2019年～）

県外募集申請・認定（2022年度入試～）



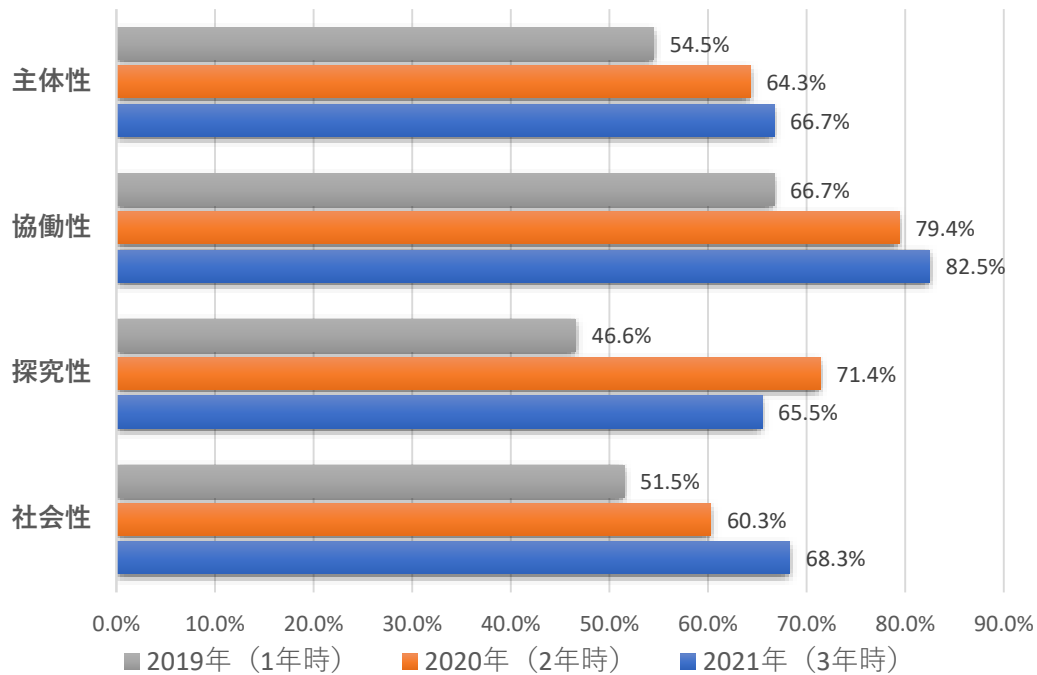
研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

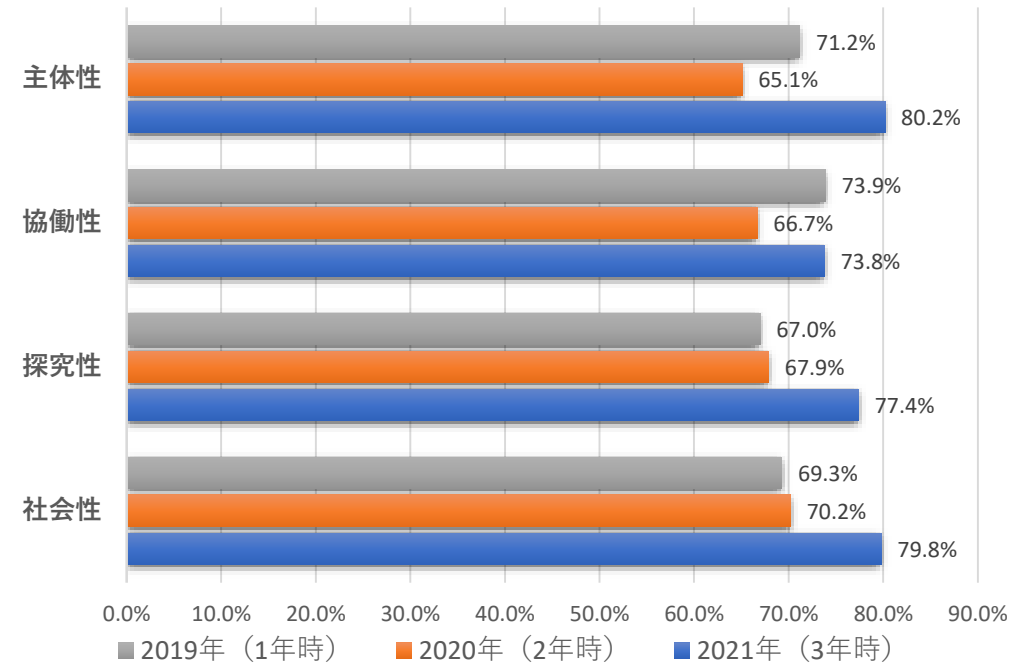
- 「白い森未来探究学」が、教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸として定着
- 各教科の専門性×地域資源（各々が「自分には何ができるか」を考える当事者意識の醸成）
 - ➡ 社会に開かれたカリキュラムが実現、肥沃な学びの土壌のある地域へ

地域協働カリキュラム一期生の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その1）

①学習活動（明示的カリキュラム※1）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



②学習活動（学びの土壌：非明示的カリキュラム※2）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



全領域で入学時より高位 → 年々でカリキュラムが改良されている

全指標で他地域比で高位 → 生徒が学びやすい環境が整っている

※1:シラバスや学習計画等の教育課程（何を学べるか、どのように学べるか）

※2:学びの土壌及び教職員等大人の見方・考え方・姿勢等（誰と学べるか、どのような環境で学べるか）

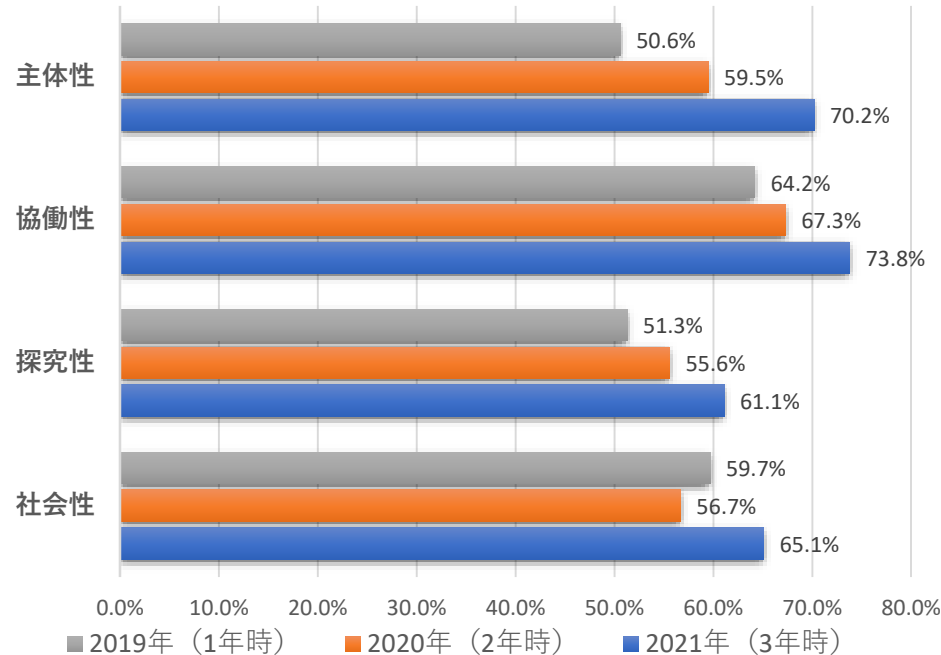


研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

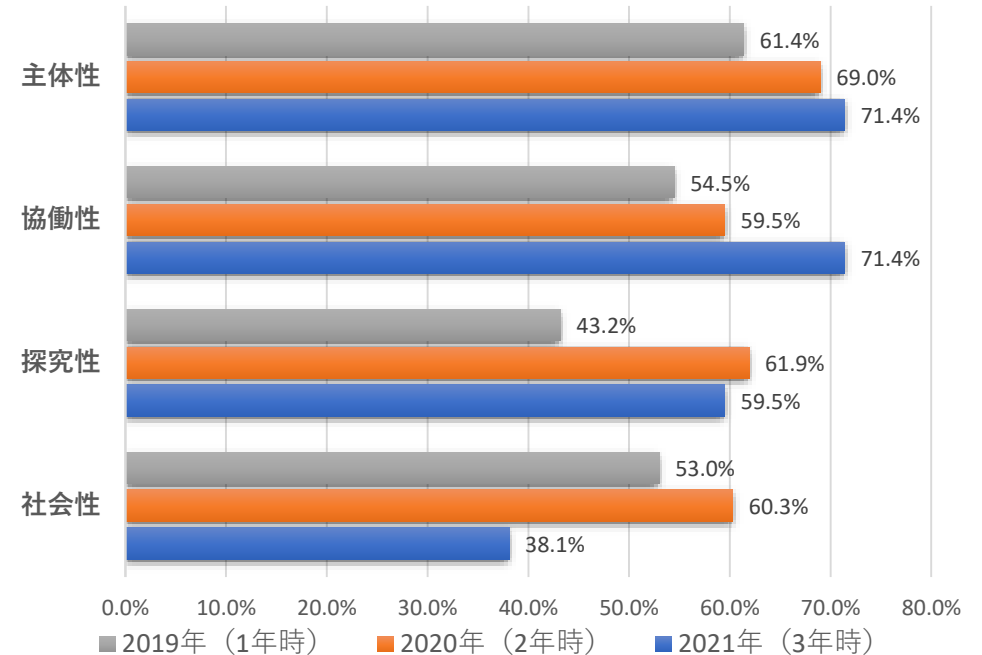
地域協働カリキュラム一期生の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その2）

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



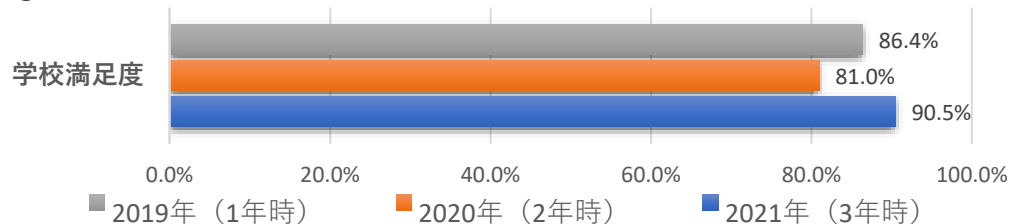
全領域で入学時より高位 → 自ら協働・探究できる力が育成

④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



入学時より「主体性」「協働性」伸長 △3年時「社会性」低下

⑤総合的な生徒の満足度の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



一期生に関わらず、全体的に満足度が高位

出典：高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

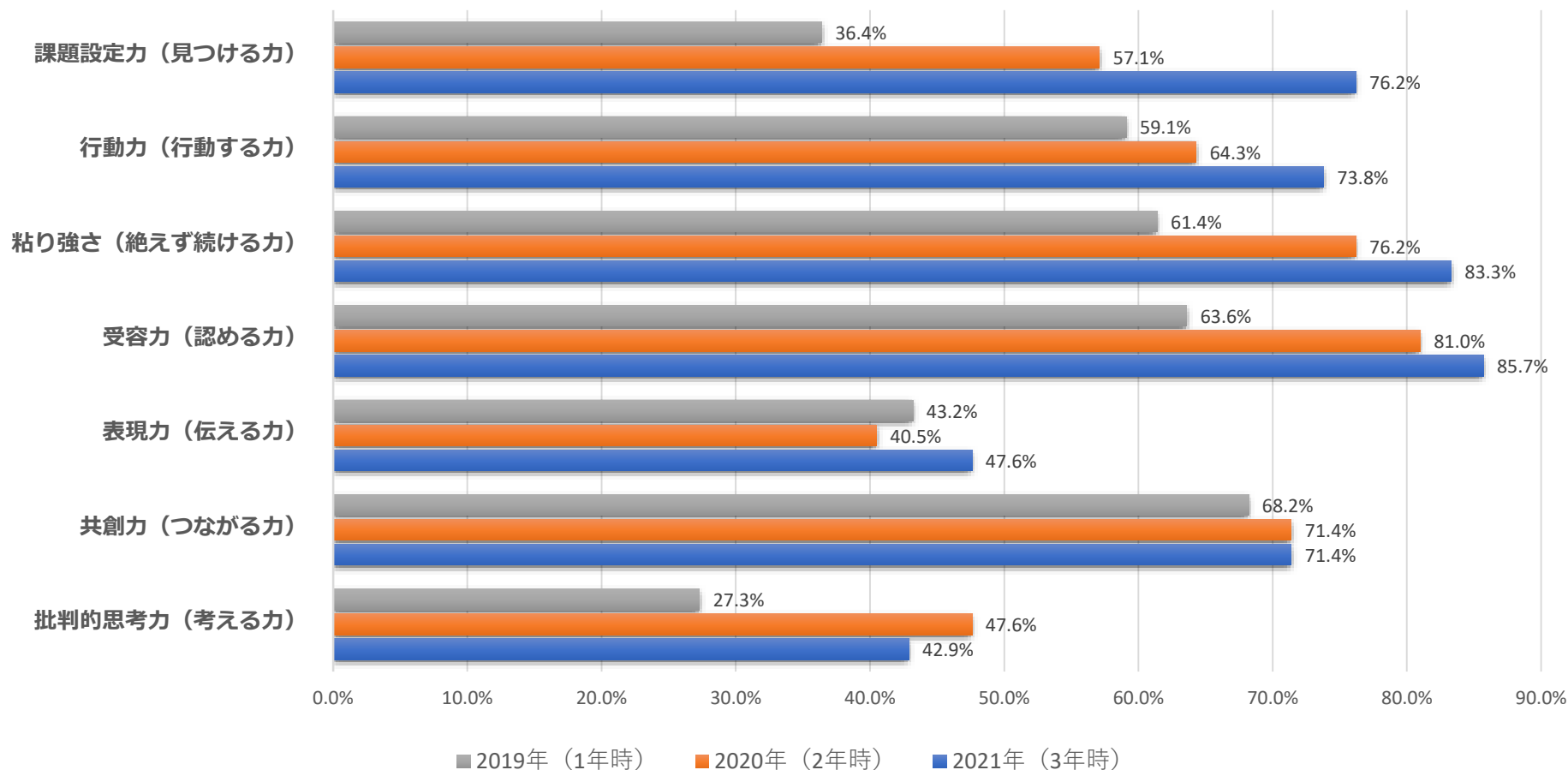


研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

地域協働カリキュラム一期生の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その3）

⑥教育活動の成果（おぐパワ7[育成したい資質能力]に類する評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



全領域で入学時より高位（特に「課題設定力」「行動力」「受容力」「粘り強さ」に顕著な伸び） △「伝える力」「考える力」に課題感

出典：高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）



研究開発の成果

2. 自走する生徒・教員・地域を支える体制の構築

- ▶ 「挑め、ともに！」が高校の「文化」として浸透（自走する生徒を生み出す対話）
- ▶ 教育現場や地域活動のバージョンアップ（大人の学ぶ機会の創出→自走できる教員・地域へ）
 - ➡ 大学・企業・他校とのつながりや表現の場の増加による新しい価値観への気づき

研究開発の成果

3. 高校の存在意義の確立と関係（還流）人口の創出・拡大

- ▶ 小国高校の教育活動への理解の深まり
町内中3生・保護者・中学教員「高校の印象が良くなった」割合が高位（90%超）
 - ➡ 地元中学生の進学率の維持（30%強）
- ▶ 町がリーダーシップを執って高校魅力化を推進
 - ➡ 町教育委員会内に「高校魅力化推進室」発足（2021年～）
 - ➡ 地元への愛着や誇りを醸成し、地域活性化の一翼を担う人材育成の意義浸透
高校だけでなく地域の多様な大人が参画することで肥沃な学びの土壌になる
（「高校生と一緒にやると面白い」「高校生がいてくれると助かる」という実感）
 - ➡ 地元就職を希望する生徒の高校卒業後の地元就職率の維持（100%）



研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発
2. 自走する生徒・教員・地域を支える体制の構築
3. 高校の存在意義の確立と関係（還流）人口の創出・拡大

研究開発の結論

コンソーシアム及び保小中高一貫教育を活用し、「白い森未来探究学」を軸とした高校での学びを地域内外の様々な主体と協働することで、小国高校の教育目標である「広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材の創生」を実現できたと言える。また、地域協働活動を通して、地域の魅力を再認識するとともに愛着や誇りを養い、積極的に地域とつながり、地域活動に取り組む人材を育てることになり、小国町の望む地域活性化の一翼を担う人材の創出となった。

課題

- ◇ 生徒の成長実感を意識したカリキュラムの年次改良とグランドデザインの整理
小国高校・小国町で育てたい生徒像「白い森人」の再確認
- ◇ 外部有識者とのつながりの継続（学び続ける教員・地域を継続する意義や価値を理解し、計画的に研修を創出できる資金の確保）
- ◇ 高校魅力化コーディネーターの十分な活用と小国高校・小国町の求める人材の継続確保
- ◇ コンソーシアムの在り方（生徒の興味・関心に応えるための機関としての実働性の強化）

今後の展望 **これからもチームで「挑め、ともに！」**

- 高校・町の未来や夢を本気で語る場の創出（皆で作り上げる・共有する意識を！）
- 「意識高い系」教育現場・地域の維持＝変態化しやすい環境を維持
（有識者等より中央省庁等の最新情報を得て、時代の潮流を理解し続ける意識）

